



## 「ふつう」という言葉

底冷えの残る毎日ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

シャローム横浜では12月中旬から年末にかけて、4階フロアにてインフルエンザが猛威を振るい、約30名のご利用者との5名の職員が陽性となりました。しかし、元旦には収束宣言をすることができ、皆そろって新年を迎えることができました。また、1月2日から面会も再開することができ、ご家族が新年の挨拶に訪れるなど、無事に過ごせたことに感謝申し上げます。今後対策をしっかりと行うことで、皆様の安心につなげていきたいと考えております。

先日、家族との会話の中で、いままで「ふつう」と感じていた日常が、実はそうではなかったとしみじみ感じる場面がありました。様々な条件や環境が整わないと「ふつう」という日常は成り立たないのです。

「ふつう」という言葉は、広く通用する状態のことを意味しており、我々も日常生活の中でよく使います。しかし、よく調べてみますと概念はかなり曖昧で、社会が作り出した流動的な基準に過ぎません。それに従うことで安心感を得られますが、一方で個人の自由を制限する面もある、と記されていきました。

昨年11月の朝日新聞 編集委員の岡崎明子著の多事奏論「ふつう」という言葉 相手を傷つける無意識の刃」という記事に目が留まりました。そこには、自閉スペクトラム症と診断された女性の生きづらさが書かれており、「ふつう」に見られないといじめられたり嫌われたりするため、「ふつう」に見えるように努力している姿が描かれていました。「ふつう」という言葉の裏にそれが望ましい価値観があり、相手が深刻に悩んでいる気持ちに思い至らない未熟さや、悪意が無くても偏見や思い込みにより相手を傷つけてしまうことになる、と記されていきました。

普段何気なく使っている言葉で相手を傷つけるのではなく、意識して選んだ言葉によって、相手の心を温かくし、また自分らしい生活を歩んでいただけるよう促すことが出来たらと願っております。皆様の日々の生活が支えられますようお願いいたします。

施設長 高原 信夫

## — 百聞は一見に如かず —

クリスマスシーズンに合わせて壁に大きなクリスマスツリーを作りました。

毎年自作のクリスマスツリー。せっかくなので実物を見てみようとな

気の良い日に南町田のグランベリーパークに行ってきました。

今年も、ご利用者のたくさんの笑顔を引き出せるよう、賑やかなデイサービスでお送りします。

☆本年もよろしくお願い致します☆

デイサービス主任 木下 順子

第 306 号

令和8年1月15日発行

(毎月1回15日発行)

責任者:施設長 高原信夫

〒241-0802

横浜市旭区上川井町 1988

社会福祉法人アドベンチスト福祉会

シャローム横浜

☎045-922-7333

編集委員 荒金・石川・石橋

[https://www.adventist-](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)

[welfare.jp/yokohama/](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)



## 新年を迎えての楽しいひととき



新年明けましておめでとうございます。皆様、お健やかに過ごしてでしょうか。本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い致します。



感染症が落ち着き、シャローム横浜4階でも新年のお祝いをさせて頂きました。

栄養課の皆様が作ってくださった美味しいおせちを皆さんで楽しまれました。その後、職員が用意したシャローム鳥居で記念撮影をし、くじ引きなども楽しまれました。ご利用者の皆様が新年を迎えて楽しく過ごして下さったようで、とても嬉しく思います。

4階主任 加藤 啓

## 新年の幸せを願うお祝い膳

明けましておめでとうございます。

1月1日の昼食には正月祝膳として、栄養課より心を込めておせち料理を作らせていただきました。

お雑煮にはお餅に見立てたゼリーも入っています。今年も入所されている皆様のご多幸をお祈りするとともに、毎日の楽しみとさせていただけるようなお食事作りに努めていきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



栄養課一同

## 私共の力の源はどこに？

第214回 チャプレン 上前 至

皆さまにとって2026年はどんな年になりますでしょうか？昨年を振り返りますと私にとっては、年の終わりに仕事上でも大きな変化を経験した年でもあり、同時に自分の体力の衰えや弱さ、欠点を痛切に感じさせられる年でもありました。

また私事ですが、私達夫婦の長男家族が日本での滞在9年間を終え、クリスマスの日にカナダに永住帰国することになりました。嫁が台湾系カナダ人でもあり、またその家族も多く向こうに住んでいることから、いずれその時が来ることは覚悟していました。しかし、実際にその日が来ると、やむを得ないこととはいえ、4歳の孫と共に帰国した時は、寂しさがどっと私共夫婦に押し寄せてきたのも事実でありました。

それ故に、年の最後の最後に大きな変化を経験した年ともなりました。ただ幸いなことに、私にとっては何十年ぶりの年末年始を挟む1週間以上の休

みを取り、家内と共に静かでゆったりした正月を過ごせたことは、ありがたいことでした。皆さまはお正月をどのように過ごされたでしょうか？

正月の静かな時間を過ごす中で、ふと私の脳裏に浮かんだ言葉があります。この言葉を紹介し、皆様にとって今年の1年が神様によって祝福された年となりますように祈ります。

「私共は自己を中心として果たして自分は救われるかどうかを心配したり恐れてはなりません。これは皆、私共の心を力の源である救い主から離してしまいます。魂を全く神に委ねてパウロと共に『生きているのはもはや私ではない。キリストが私の内に生きておられるのである』」（キリストへの道 96頁）

